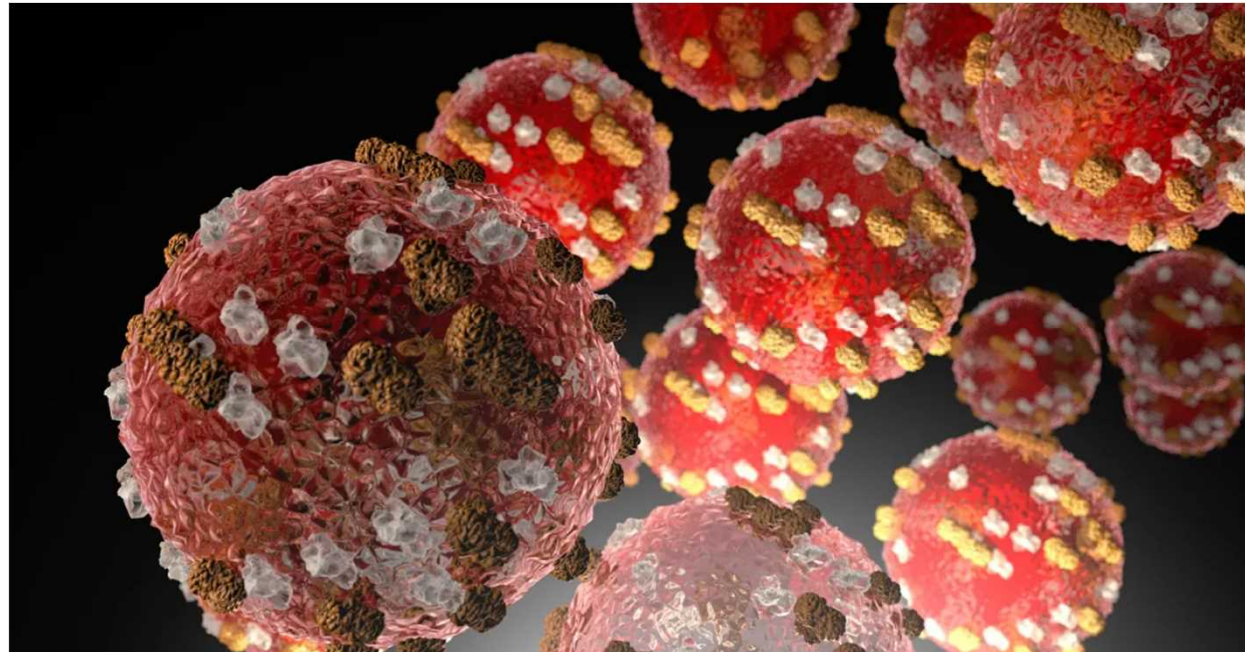


麻疹について



※CDCのHPより転載

令和7年8月26日（火）高千穂保健所運営協議会資料
高千穂保健所 健康づくり課

- 1 麻疹（はしか）とは？**
- 2 麻疹の発生状況**
- 3 麻疹の症状と経過**
- 4 麻疹の治療と予防**
- 5 麻疹に対する取組**

1 麻しん（はしか）とは？

麻しんウイルス の感染で生じる全身感染症

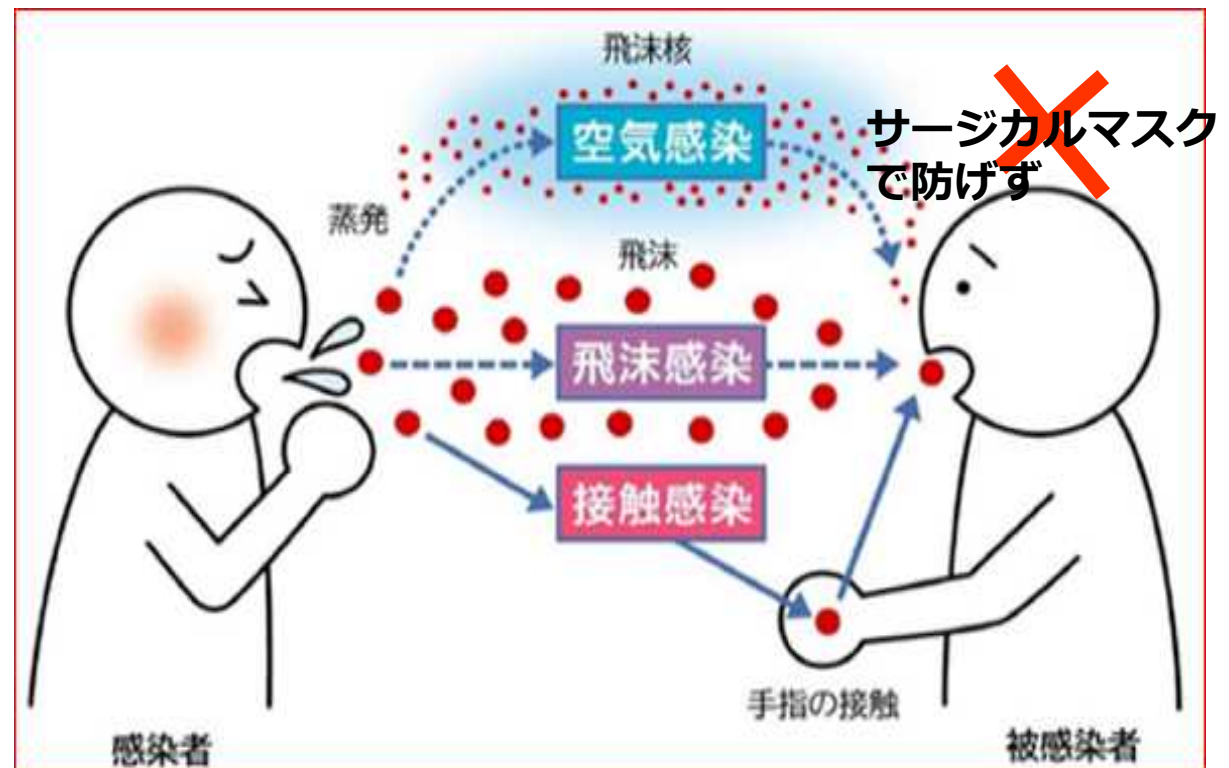
感染力が強く

少しの麻疹ウイルスとの接触でも**ほぼ100%感染**する。

感染経路は
接触、飛沫、**空気感染**

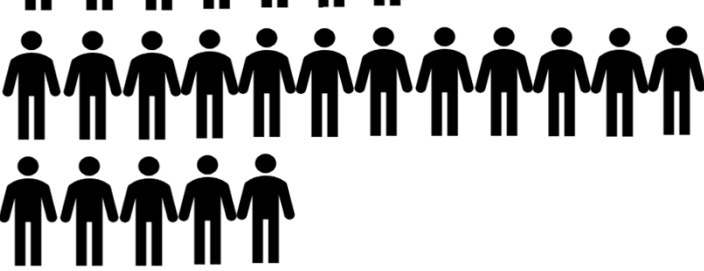
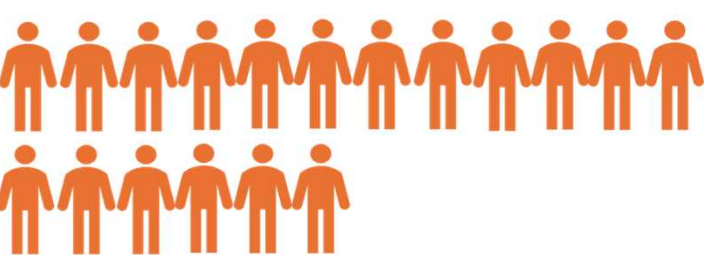
すれちがったくらいでも
感染する

感染症法上の分類は
5類感染症
(全数把握対象)

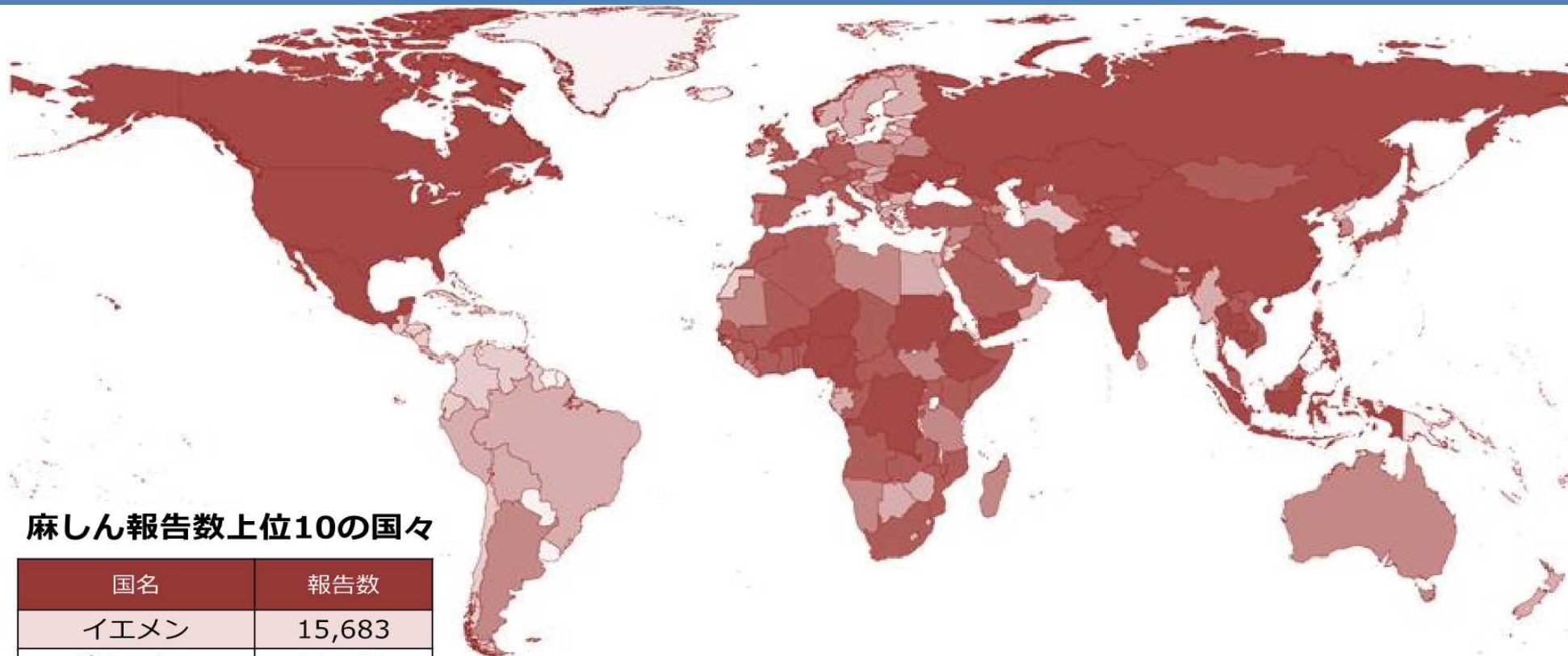


麻しんウイルスの感染力

感染者1人から何人に感染するのか

インフルエンザウイルス	1.4～4人	
ムンプスウイルス (おたふくかぜ)	4～7人	
水痘ウイルス	5～7人	
風疹ウイルス	6～7人	
百日咳ウイルス	12～17人	
麻しんウイルス	12～18人	
伝染性感染症の中で最強		

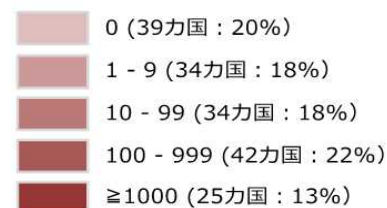
2 麻しんの発生状況（世界） R7年7月現在



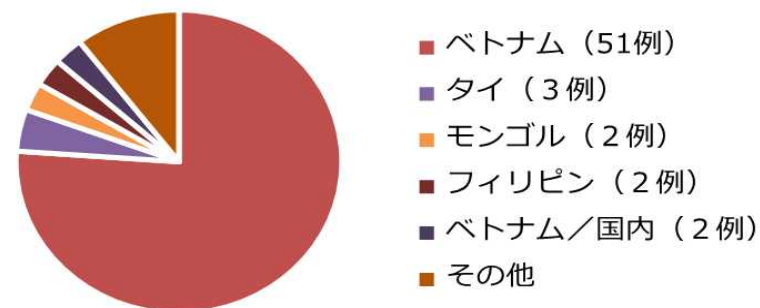
麻しん報告数上位10の国々

国名	報告数
イエメン	15,683
パキスタン	12,732
インド	10,299
キルギス	8,497
アフガニスタン	7,615
エチオピア	5,370
ルーマニア	4,739
ナイジェリア	3,395
カナダ	3,053
ロシア連邦	2,781

麻しん報告数



日本国内で届出された麻しん症例の推定感染地域



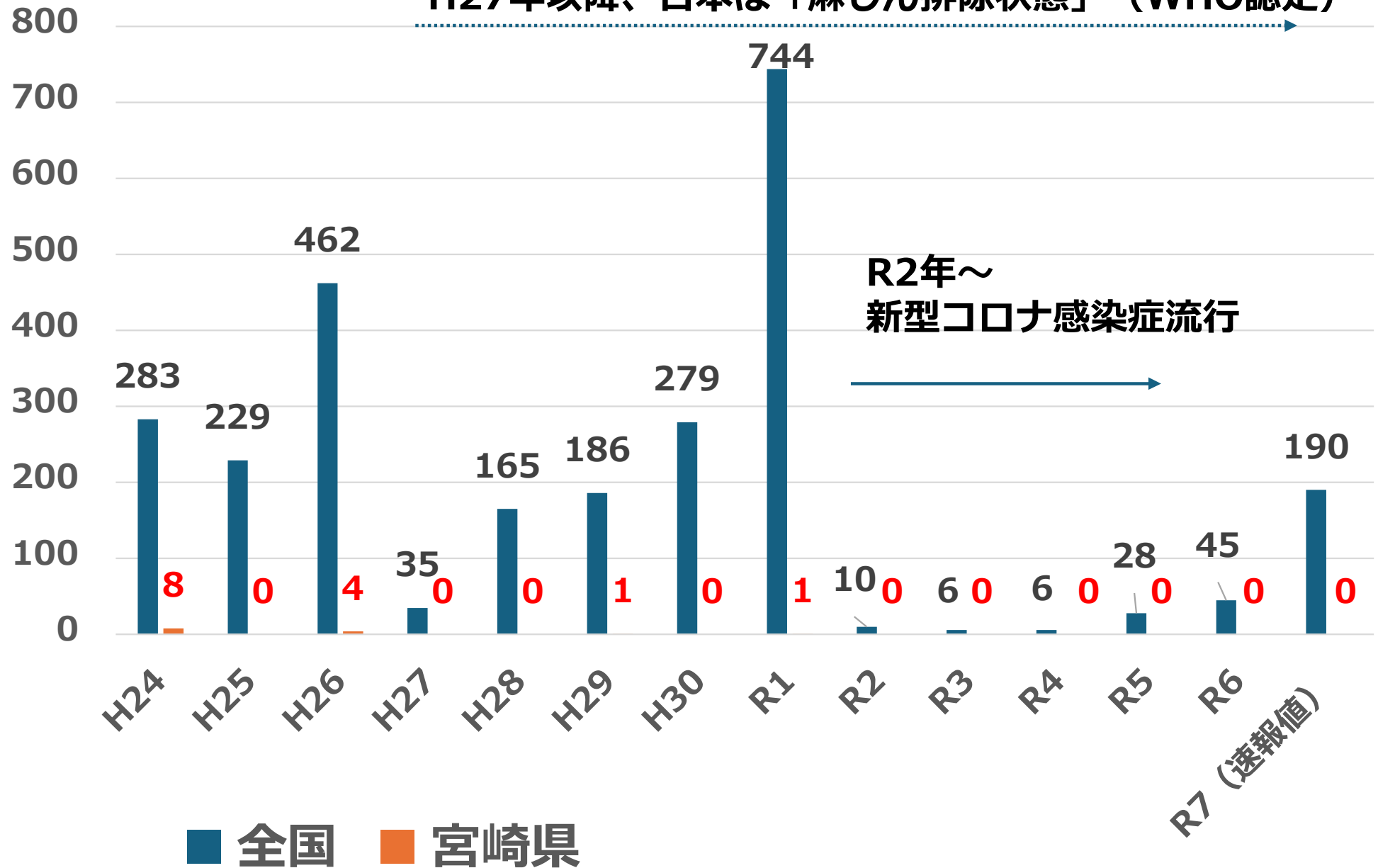
WHO(世界保健機関) 麻しん報告数 (2024年12月～2025年5月)

令和7年7月現在 ; 一部改変

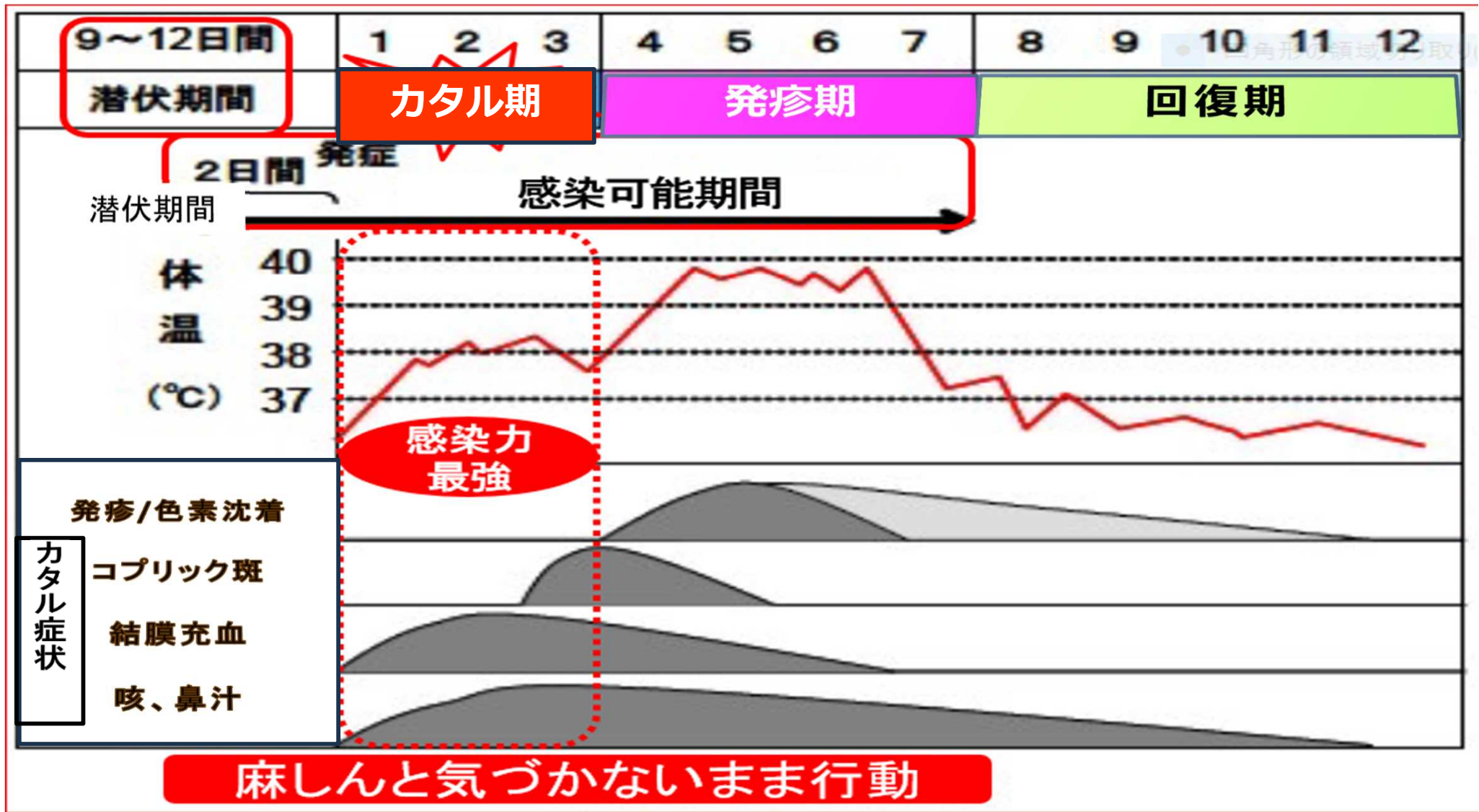
2025年第1週～第28週 (令和6年12月30日～令和7年7月13日)

2 麻しんの発生状況（全国・宮崎県）

H27年以降、日本は「麻しん排除状態」（WHO認定）



3 麻疹の症状と経過



引用一部追記：日本医師会編
「感染症の診断・治療ガイドライン」より

3 麻しんの症状と経過

カタル期の主な症状（カタル症状）

咳・鼻水・発熱



全身倦怠感



結膜炎症状



3 麻疹の症状と経過

麻疹の発疹
発疹同士がくっつく



<参考>風疹の発疹
発疹同士は離れる



コプリック斑

麻疹の発疹：ぼたん雪、風疹の発疹：粉雪

「**麻の服にボタン、風に舞う粉雪**」



引用一部追記：日本医師会編「感染症の診断・治療ガイドライン」より

3 麻しんの症状と経過

修飾麻しんとは

麻しんウイルスに対する免疫が不十分な場合、

微熱、発熱期間が短い、

カタル症状を認めない、

限局性の発疹

との症状を呈する。

症状は軽症、感染力は弱い

潜伏期間は、延びる可能性あり

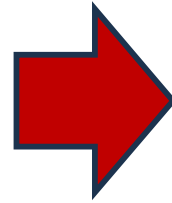
症状のみからの診断は困難

検査・診断が重要

4 麻しんの治療と予防

麻しんの治療

対症療法のみ
ex:解熱剤等



怖い合併症

中耳炎、胃腸炎が多いが、
頻度は少なくとも重篤な、命に関わるものとして、

肺炎：約6%。小児の死因第1位

脳炎：1000人に1例程度。約15%死亡、約25%に後遺症

亜急性硬化性全脳炎（SSPE）【指定難病】

最も重篤。幼児期の感染後、4～8年過ぎて発症し、死に至る。
数万人に1人くらいの発症率。

脳内で持続感染
学童期に発症

ワクチン接種による抗体獲得必要

第1期（1歳頃）・第2期（6歳頃）の定期接種が重要！！！！

4 麻しんの治療と予防

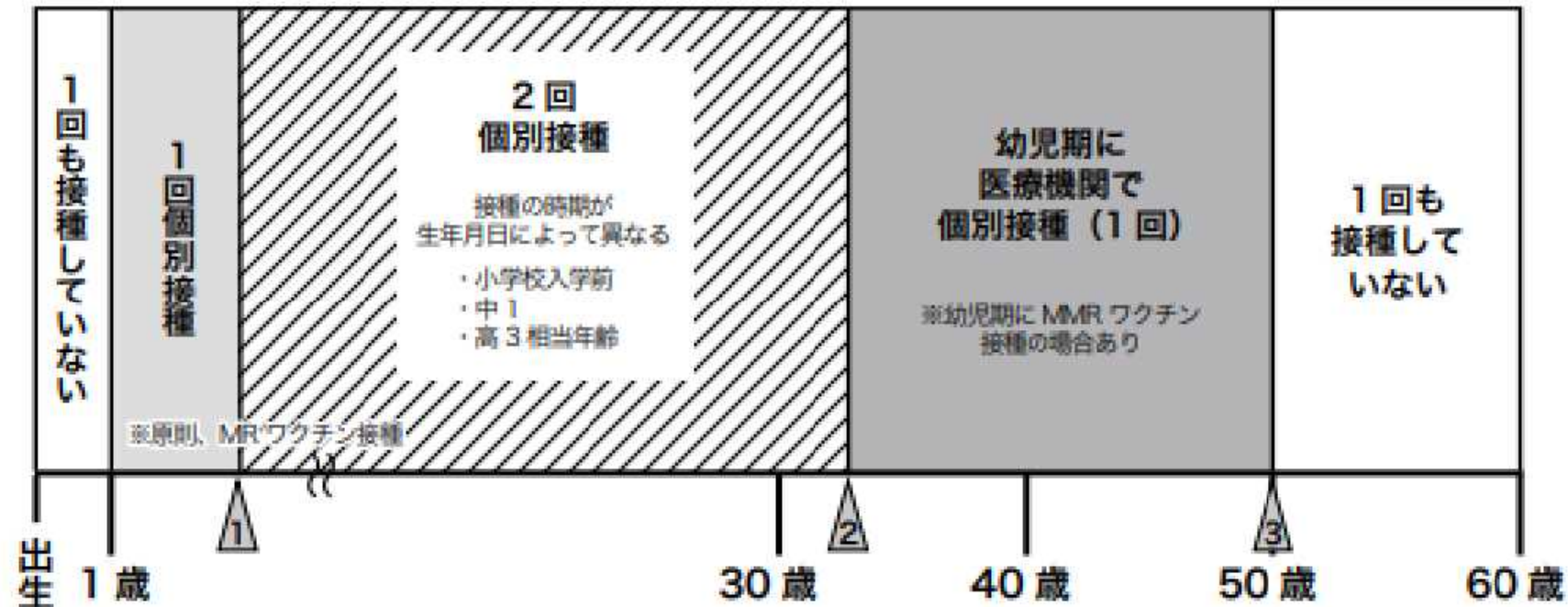
2023年度 麻しんワクチン接種率（％）

95%以上が
目標！

	第1期	第2期
全 国	94.9%	92.0%
宮 崎 県	96.2%	92.5%
高千穂町	※102.2%	93.7%
日之影町	※150.0%	96.7%
五ヶ瀬町	※106.3%	94.1%

※前年度対象者が当該年度に接種したことにより、100%を超えている。

4 麻疹の治療と予防～ワクチンの定期接種状況～



R7年4月1日時点で、

35歳から52歳6か月までの方は、幼児期に1回のみ接種。

52歳6か月以降の方は、1回も接種していない可能性あり。

「第4回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会配付資料」厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000015044.html> をもとに作成 (2023年8月現在)

引用：国立感染症研究所 麻疹の発生に関するリスクアセスメント（2024年第一版）p 4 図3

5 麻しんに対する取組

感染予防に関する啓発～リーフレット配布～

感染症対策

ま 麻しん (はしか) に ちゅうい ご注意ください



症状

感染すると約10日後に発熱やせき、鼻水といったかぜのような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。

感染経路

空気感染等により、簡単に人から人に感染します。麻しんの免疫が不十分な人が感染すると、高い確率で発症します。

麻しんかな?と思ったら

医療機関に電話等で麻しんの疑いがあることを伝え以降は医療機関の指示に従ってください。医療機関への移動の際は公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

予防方法

ワクチン接種が有効です。定期接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）、医療・教育関係者、海外渡航を計画している方は、予防接種が済んでいるかご確認ください。



海外での感染にもご注意ください

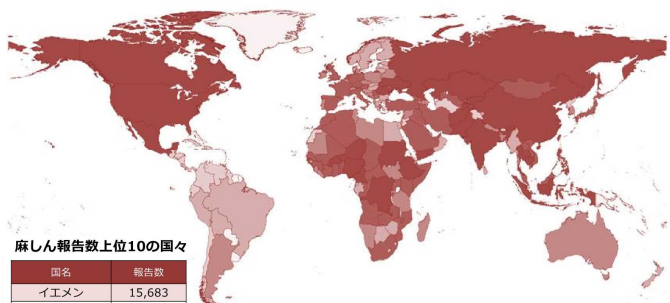
詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



厚生労働省
感染症対策課 2025年7月作成

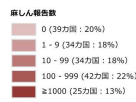
海外へ渡航される方へ

「麻しん（はしか）」は 世界で流行している感染症です。

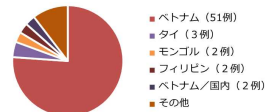


麻しん報告数上位10の国々

国名	報告数
イエメン	15,683
パキスタン	12,732
インド	10,299
キルギス	8,497
アフガニスタン	7,615
エチオピア	5,370
ルーマニア	4,739
ナイジェリア	3,395
カナダ	3,053
ロシア連邦	2,781



日本国内で届出された麻しん症例の推定感染地域



WHO(世界保健機関) 麻しん報告数 (2024年12月～2025年5月)

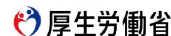
令和7年7月現在；一部改定

<https://www.who.int/news/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance-monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

海外へ行く前に

- ✓ 麻しんの予防接種歴を母子手帳などで確認しましょう
- ✓ 定期接種を受けていない方は、接種を検討してください

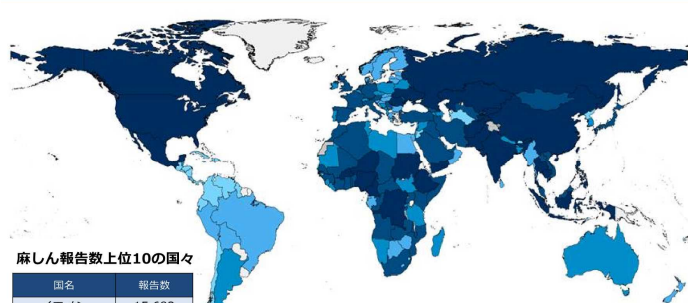
詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



感染症対策課 2025/7/23作成

海外から帰国された方へ

帰国後2週間程度は
麻しん 発症の可能性を考慮し
健康状態に注意してください。

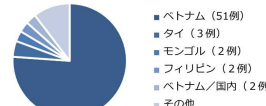


麻しん報告数上位10の国々

国名	報告数
イエメン	15,683
パキスタン	12,732
インド	10,299
キルギス	8,497
アフガニスタン	7,615
エチオピア	5,370
ルーマニア	4,739
ナイジェリア	3,395
カナダ	3,053
ロシア連邦	2,781



日本国内で届出された麻しん症例の推定感染地域



WHO(世界保健機関) 麻しん報告数 (2024年12月～2025年5月)

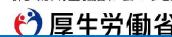
令和7年7月現在；一部改定

<https://www.who.int/news/immunization-vaccines-and-biologicals/immunization-analysis-and-insights/surveillance-monitoring/provisional-monthly-measles-and-rubella-data>

帰国後2週間程度は

- ✓ 高熱や全身の発しん、せき、鼻水、目の充血などの症状に注意しましょう

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください



感染症対策課 2025/7/23作成

**国内での注意喚起の
ためのリーフレット**

**海外へ渡航される方
へのリーフレット**

**海外から帰国された
方へのリーフレット**

5 麻しんに対する取組

研修会による普及啓発



医療従事者を対象

保育所職員を対象

5 麻しんに対する取組～発生時の早期対応～

医療機関からの届出

感染症法第12条第1項

麻しん：五類感染症・全数報告対象
診断後7日以内に医師が届出
麻しんの場合は迅速な行政対応が
必要となるため診断後24時間以内を
目処に届出を依頼。

保健所が窓口

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式5-2-3

麻しん発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第10項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 令和 年 月 日

医師の氏名
署名する病院・診療所の名称
上記病院・診療所の所在地（※）
電話番号（※）

（※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検査）した者（死体）の種類 ・患者（確定例）・感染症死亡者の死体	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢（0歳は月齢）	6 当該者職業
2 当該者氏名	男・女	年 月 日	歳（ か月）	
7 当該者住所	電話（ ） —			
8 当該者所在地	電話（ ） —			
9 保護者氏名	10 保護者住所	（9、10は患者が未成年の場合のみ記入） 電話（ ） —		

11 麻しん（検査診断例） ③ 検査結果（月 日出現） ・発熱（月 日出現） ・咽痛・コプリック斑・皮疹（月 日出現） ・肺炎・中耳炎・腫・クループ ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いいたします） ・その他（ ）	12 麻しん（臨床診断例） ③ 検査結果（月 日出現） ・発熱（月 日出現） ・咽痛・コプリック斑・皮疹（月 日出現） ・肺炎・中耳炎・腫・クループ ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いいたします） ・その他（ ）	13 感染原因・感染経路・感染地域 ① 感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況：（ ）） 2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況：（ ）） 3 その他（ ） ② 感染地域（確定・推定） 1 日本国内（都道府県 市区町村） 2 国外（国 詳細地域） ※ 複数の国又は地域が該当する場合は全て記載すること。 渡航期間（出国日 年 月 日・入国日 年 月 日） 国外居住者については 入国日のみで可 ③ 麻しん含有ワクチン接種歴 1 回目 有（ ） 無（ ） 不明（ ） ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S-H-R 年 月 日・不明） 製造会社/ロット番号（ / ） 2 回目 有（ ） 無（ ） 不明（ ） ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S-H-R 年 月 日・不明） 製造会社/ロット番号（ / ）
14 初診年月日 令和 年 月 日	15 診断（検査）年月日 令和 年 月 日	16 感染したと推定される年月日 令和 年 月 日

この届出は診断後速に

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

5 麻しんに対する取組

発生時の保健所の対応

- ①届出受理後、所内協議
- ②薬務感染症対策課及び衛生環境研究所へ連絡・報告

行政検査

医療機関での検体採取

(血液、尿、咽頭ぬぐい液の3点)

衛生環境研究所へ検体搬入

R T - P C R、麻しん特異的I g M抗体価測定

R T - P C R法は約24時間以内結果判明

陰性

発生届取下依頼
行動制限等解除

陽性

患者・接触者の
行動制限継続、健康観察継続

疫学調査

患者調査 (感染源、接触者特定)

接触者調査 (発症予防)

拡大防止保健指導

(感染可能期間の外出自粛、行動制限 等)

最後に

- ・ 麻しんは未だに**身近な感染症**です！
- ・ **日々の健康チェック**を心がけて、
風邪症状や発疹出現時は、
早めに医療機関を受診し検査を受けましょう！

今後も引き続き、
麻しん対策の推進に取り組んで行きます！

